

令和7年度第3回袖ヶ浦市行政改革推進委員会

1 開催日時 令和8年3月9日（月）午前10時開会

2 開催場所 袖ヶ浦市役所北庁舎3-2会議室

3 出席委員

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 会 長 | 安枝 玲司 | 委 員 | 宗政 恒興 |
| 委 員 | 竹内 良雄 | 委 員 | 寺田 明生 |
| 委 員 | 中山 朝子 | 委 員 | 鈴木 敏延 |
| 委 員 | 内藤 恵子 | 委 員 | 塩谷 礼子 |
| 委 員 | 石原 邦夫 | | |

欠席委員

| | |
|-----|-------|
| 委 員 | 近藤 信子 |
|-----|-------|

4 出席職員

| | | | |
|----------|-------|-----------|-------|
| 市長 | 粕谷 智浩 | 企画政策部長 | 千田 和也 |
| 企画政策部参与 | 金子 則彦 | 行政管理課長 | 多田 晴美 |
| 行政管理課副主査 | 小林 未和 | 行政管理課主任主事 | 松原 瑠南 |

5 傍聴定員と傍聴人数

| | | | |
|------|----|------|----|
| 傍聴定員 | 5名 | 傍聴人数 | 0名 |
|------|----|------|----|

6 議 題

(1) 行政改革プラン《第8次行政改革大綱及びアクションプラン》の策定について
(諮問)

7 議 事

(1) 行政改革プラン《第8次行政改革大綱及びアクションプラン》の策定について

事務局（小林副主査）

資料1-1 行政改革プラン修正箇所対照表

資料1-2 【最終案】行政改革プラン（案）【概要版】

資料1-3 【最終案】行政改革プラン《第8次行政改革大綱・アクションプラン》
（案）

資料1-4 【最終案】《別添》行政改革プラン推進項目（案）に基づき説明

【質疑等】

宗政委員

行政基盤として「ヒト・モノ・カネ」を強調している意図はあるか。

事務局（多田課長）

「ヒト」は人材、「モノ」は制度や仕組み、「カネ」は財政、といった行政基盤を整えることで、目指すべき行政運営を実現するため、今回この3つを強く押し出している。

また、これまで行政改革において公共施設管理の取組を推進してきたが、現在の取組は公共施設の再配置方針や総合管理計画を別途策定し推進していることから、計画の重複を避けるため今回の行政改革プランには含めていない。

宗政委員

資料1-3の12ページ、「柔軟な組織体制」と記載があるが、どういった意味か。

事務局（多田課長）

市の人材には会計年度任用職員など、正職員以外の職員も近年増えていることから、そういった人材の配置や業務などの見直しを図る取組などを位置付けている。

宗政委員

「ヒト・モノ・カネ」という表現は、行政運営に対し一般的な軽い言い回しのように捉えた。また、これらに加えて「情報」が大切にされている時代であること、行政管理課がDX推進課に名称を変えるということからも、市の目指している行政改革プランの意図が伝わりにくいように感じた。

事務局（多田課長）

これまでも行政改革の取組は分かりづらいというご意見もいただいている中で、取組の内容が端的に伝わりやすいよう、「ヒト・モノ・カネ」という表現をあえて加えているところもあるため、ご理解いただければと思う。

石原委員

民間企業においては「ヒト・モノ・カネ」に加え、「コト」、としてサービスを加える考え方が近年認められている。今後6年間、計画において推進する言葉として考えたときに、「コト」を加えてもよいのでは。

事務局（多田課長）

「モノ」の中に制度や仕組み、サービスが含まれるという考え方である。行政改革で効率化を進めるとともに、市民の満足度を向上させるという視点は常に忘れずに取り組んでいきたいと考えている。

石原委員

前回会議における、DX推進にあたり国や県などの関係機関と連携すべきという意見に対し、今回の説明、組織改正におけるDX推進課への名称変更をもって反映いただいたと理解した。

資料1-3、13ページにおいてDX推進方針は個別に策定するとしているが、本来総合計画と横串を刺して、6年間の中でPDCAを回して進めていくべきだと考える。関係機関と連携し、多角的に、袖ヶ浦市がやるべきことを取捨選択の上、市独自で骨太の計画として策定することが重要だと思う。

DX推進にあたっては、なんとなくITを進めるのではなく、具体的な目標や対象を落とし込むよう、DX推進課として取りまとめることを希望する。

事務局（多田課長）

DX推進方針においては、特定の業務においてICTを導入する取組などは位置づけがない予定であるが、総合計画や行政改革プランなどの事業の取組にあたっては、DXの視点を加え、効率化と市民サービス向上を考えていくことを盛り込んでいく。

ICTの導入が目的化しないよう、導入検討と併せ費用対効果の確認等を行っていき、DX推進課が推進役となって取り組んでいきたい。

石原委員

是非、実行計画に落とし込んでいただくことを希望する。

寺田委員

全国自治体の業務システムの標準化について、デジタル庁から進捗率が示され、令和7年度までに移行すべきところ、52.5%が達成できない見込みだと発表された。袖ヶ浦市はどうか。

事務局（多田課長）

袖ヶ浦市は、令和8年2月をもって、国の示す20業務のシステムについて移行したところである。

寺田委員

民間企業において、A Iを導入し、今後10年間で5000人分の事務を削減すると掲げているのを見た。行政改革プランにおいても、このような数値目標があったほうが、進捗状況が理解しやすい。

安枝会長

議題1 行政改革プラン《第8次行政改革大綱及びアクションプラン》の策定については、審議案件となるため、推進委員会としての方針をまとめていきたい。皆さまの意見から、大幅な修正はないため概ね妥当だと認めることとしたい。答申の作成について、会長に一任いただけるか。

各委員

異議なし。

安枝会長

それでは、答申（案）については私が作成し、後日、委員の皆様にご確認をしていただき、市長に手渡す運びとしたい。

午前10時34分 閉 会